

## 健康ポイント事業への AI 機能搭載による予防医療の推進

### 取組のあらまし

- 取組団体 山形県山形市
- 取組内容 健康ポイント事業「SUKSK」に新機能「AI 健康アドバイス」を搭載。健康診断結果と歩数データを基に、AI が血糖値・中性脂肪の将来リスクを分析し、毎週パーソナライズされたミッションを配信。マイナンバーカード連携により手軽に利用でき、ポイント制度で継続を促進。
- 推進体制 6名（令和7年度）
- 予算等 42,719,000円（令和7年度）

### 1 山形県山形市の概要

- 人口 236,164人 令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
- 職員数 1,151人 令和6年4月1日現在（一般行政部門）
- 総面積 381.30km<sup>2</sup> 令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」）

図表 1 山形県山形市の位置図



出所：山形市提供資料

## 2 取組の背景・目的

わが国は超高齢社会の進展に伴い、生活習慣病対策と医療費適正化が喫緊の課題となっている。特に地方自治体においては、住民の健康寿命延伸と医療費抑制の両立が求められる中、従来の健康診断後のフォローアップ体制では限界が指摘されている。多くの自治体では健康診断の受診率向上に注力してきたものの、診断結果を踏まえた継続的な健康行動変容の促進については十分な成果を上げられていない状況であった。山形市は、こうした課題解決に向けて令和7年2月5日から、既存の健康ポイント事業「SUKSK」（以下、「SUKSK」と言う。）にAI技術を組み合わせた新サービス「AI健康アドバイス」の提供を開始した。

「SUKSK」は、山形市が掲げる「健康医療先進都市」の実現に向け、令和元年度から開始された健康ポイント事業である。食事（S）、運動（U）、休養（K）、社会参加（S）、禁煙・受動喫煙防止（K）の5要素に基づく「SUKSK生活」の普及を目的とし、スマートフォンアプリを活用して市民の歩数や健診受診、健康イベント参加等をポイント化し、健康行動の定着を促してきた。事業開始から登録者数は令和7年5月末時点で1万8千人を超え、働き盛り世代を中心に幅広い層の市民に支持されている。

この「SUKSK」に搭載した新機能「AI健康アドバイス」は、健康診断結果と日常の歩数データをもとに、AIが個人の血糖値と中性脂肪の将来的な上昇リスクを予測し、パーソナライズされた健康アドバイスを継続的に提供することを目的としている。これにより、生活習慣病の予防と早期対策を促進し、住民の健康寿命の延伸を図っている。

## 3 取組内容

山形市が導入した「AI健康アドバイス」は、既存の「SUKSK」のプラットフォームを基盤として構築されている。本システムは健康診断結果とSUKSKアプリで記録される歩数情報を組み合わせ、AIが血糖値と中性脂肪の将来的な上昇リスクを分析する機能を有している。

利用開始には3段階の手順が設定されている。第1段階として「SUKSK」への登録、第2段階として令和7年2月5日からSUKSKアプリのホーム画面に表示される新アイコンを通じた健康マイレージプラスのダウンロード、第3段階として健康診断結果の入力である。健康診断情報の入力方法は、マイナンバーカード保有者はアプリを通じた連携が可能であり、非保有者は手入力での対応が可能である。

登録完了後、初回判定までには歩数等のデータ収集・分析のため2週間から20日間を要する。その後は毎週月曜日に中性脂肪と血糖値の改善習慣スコアの更新と、分析結果に基づいたパーソナライズされたミッションが配信される。ミッション達成によりSUKSKポイントが付与され、インセンティブ機能を通じて継続的な健康行動を促進する仕組みが構築されている。判

定精度の向上を図るため、SUKSK アプリでの体重の毎日入力が推奨されている。本システムは医療行為や医業を目的とするものではなく、健康管理支援のための参考情報提供に特化している。AI による分析結果は確実性、有用性、完全性を保証するものではないことが明示されており、あくまで住民の自主的な健康行動を支援するツールとして位置づけられている。

図表 2 AI による分析・判定フロー



出所：山形市提供資料

## 4 成果・課題

### (1) 本取組の成果

本取組により、健康保険制度に基づき行われている従来の保健指導に加え、AI を活用した継続的かつパーソナライズされた健康支援情報の提供が可能となった。AI が分析対象とするのは血糖値および中性脂肪の2項目に限定されているが、週次で配信される改善習慣スコアとミッションにより、住民が日々の生活の中で自らの健康状態を意識し、行動変容を継続的に促す環境が整備された点は大きな成果といえる。また、これまで自治体が保有する健診データは国民健康保険加入者に限られていたが、本事業を通じて、協会けんぽや共済組合等の被用者保険加入者もアプリ上で健診結果を登録することで、市としてはより広範な属性の健診情報を収集・把握することが可能となった。これにより、多様な市民の健康実態を分析し、より精度の高い健康政策の立案・改善へとつなげることが期待される。

本システムはあくまで、現行の保健指導体制を補完する情報提供ツールであり、医療行為や専門的な判断に代替するものではない。その上で、デジタル技術を活用し、健康行動の継続支援や予防意識の定着を図る点において、自治体における新たな住民支援の手法として注目される。人的資源に制約のある地方自治体においても、手軽に広範な対象へ健康支援を届けられる仕組みとして、今後の展開可能性を有している。

## （2）今後の課題

一方で、本事業の推進にあたってはいくつかの課題が想定される。

第1に、デジタルデバイドへの対応である。高齢者を中心とするスマートフォンアプリの利用に不慣れな住民層への配慮と支援体制の充実が必要である。

第2に、データプライバシーとセキュリティの確保は重要な課題である。健康診断結果という機微な個人情報を扱うため、適切なデータ管理と第三者提供に関する厳格なガバナンス体制の構築が求められる。

## 関連・参考資料

---

山形市「SUKSK に新サービス「AI 健康アドバイス」登場！」

<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kenkofukushi/iryou/1006672/1010026/1015340.html>

健康医療先進都市ブランディングサイト「HELLO! SUKSK LIFE」

<https://health-yamagata.jp/>